

高齢者が活躍する居場所の役割と高齢者への効果に関する研究 —岩手県大船渡市の「居場所ハウス」を利用する高齢者の視点から—

社会福祉学科 コミュニティ福祉系 長谷川日香

本研究は、岩手県大船渡市末崎町の「居場所ハウス」を取り上げ、参与観察及びインタビュー調査から、高齢者にとっての居場所としての役割と高齢者が参加することの効果을明らかにすることを目的とした。参与観察の結果、誰でも気軽に立ち寄れる開放的な空間や誰でも歓迎するスタッフの姿がみられ、自分にできることをする、好きなように過ごすといった自由さや緩さが居心地の良さにつながっていた。インタビュー調査からは、次の三点が明らかになった。一つ目に、居場所の役割として多世代交流やコミュニティの再構築があること。二つ目に、高齢者が居場所に参加することで様々なつながりが生まれ、自分ができることを担うことでやりがいや役割を見出せるため、継続的に来ている人も多いと考えられた。しかし、一部の役職を担う人の負担感の大きさや後継者がいない現状も明らかとなった。三つ目に、厳しい社会情勢に直面しながらも、長年の関わりで築き上げてきた支え合いの気持ちが10年間の運営継続に関係していると示唆された。同時に同質性の高まりは、きっかけなしに新規の人が入ることの難しさにもつながっていると考えられた。